

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2020年3月 No.33

中学生交流プログラム



## 今号の内容

- ◇ かめのりフォーラム 2020  
奨学生・参加生の体験発表  
ゲストスピーチ  
第13回かめのり賞表彰式  
かめのりセッション
- ◇ かめのり中高生アンバサダープログラム 2020
- ◇ 講演会
- ◇ 第11回中学生交流プログラム

## かめのりフォーラム2020 開催

2020年1月10日(金)「かめのりフォーラム2020」がアルカディア市ヶ谷で開催され、2019年度の公益財団法人かめのり財団のプログラムに参加した中学生から大学院生をはじめ、弊財団へ協力や支援をくださる関係の方々約150名が参加されました。はじめに「かめのり賞」の表彰式が行われ、今回は3団体が受賞、それぞれの活動内容を紹介されました。続いて各プログラムに参加した生徒、学生による体験発表があり、恒例のゲストスピーチは、シンガポールに在住しながら地元福井の創生にかける福井ユナイテッド株式会社代表取締役社長の吉村一男氏にお話をいただきました。

弊財団 理事長 木村 晋介



詳細は次ページにてご紹介します。



## かめのりフォーラム 2020



来賓挨拶  
(独)国際交流基金  
上級審議役 松川憲行氏



来賓挨拶  
(公財)日本ユネスコ協会連盟  
理事長 鈴木浩司氏



評議員 康本健守



評議員 宮嶋泰子



ゲストスピーカー  
福井ユナイテッド株式会社  
社長 吉村一男氏



「かめのりフォーラム2020」第1部は、公益財団法人かめのり財団理事長木村晋介の主催者あいさつから始まりました。「弊財団は2006年発足以来、アジア・オセアニアとの異文化交流教育プログラムを展開してきましたが、その参加者数は約1550名となり、追跡調査をおこなったところ、日本の内外のさまざまな分野で貴重な人材として活躍されている」と、具体例を挙げて報告いたしました。昨年3月には「かめのり同窓会」を開き、7カ国から74名が参加しお互いに励まし合う素晴らしい機会となりました。

昨年からは、新しい試みの1つとして、グローバルコミュニケーション力アップを目的にした大学生対象の研修「かめのりカレッジ」を3泊4日で実施。大変好評だったので、今

年はさらに拡大して4泊5日で行う予定と発表。このフォーラム当日は、アメリカとイランとの緊張が非常に高まる最中でしたが、「自国第一主義が国際社会を跋扈しているようですが、私たちは国境の壁を乗り越える人材を育てたいと思っています」と決意を語りました。

続いて独立行政法人国際交流基金上級審議役の松川憲行氏より来賓祝辞をいただきました。国際交流基金の重要な活動の1つに海外における日本語教育の推進があり、2012年から東南アジア5カ国の日本語を学ぶ高校生と指導する教師たちの日本語による研修「にほんご人フォーラム」をかめのり財団とともに共催、その結果3年間で日本語を学ぶ生徒が10.7%も伸びた点などを話されました。

「第13回かめのり賞」は、かめのり財団評議

員でかめのり賞選考委員でもある宮嶋泰子の司会で進行し、受賞された3団体には、かめのり財団創設者で評議員の康本健守より記念のトロフィーと副賞として活動奨励金が贈呈されました。休憩のあと、異文化交流事業の参加生を代表して4組の体験発表があり、第1部の締めくくりは、シンガポール在住でグローバルな視点から地元福井の地域創生にける吉村一男氏のゲストスピーチがありました。

第2部の懇親会は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長鈴木浩司氏に来賓祝辞をいただきました。プログラムの参加生全員が壇上に立って一言ずつ感想を述べ合ったり、かめのり賞受賞者、参加生、そしてさまざまな関係者が国籍や言語、世代を超えて交流し合う風景が展開されました。



## かめのりフォーラム2020

### 奨学生・参加生たちの体験発表

かめのりフォーラム第1部では、今年度のかめのりプログラムに参加した生徒・学生、奨学生の代表が体験発表をしました。最初は「中学生交流プログラム」で、静岡県の中学生は、インドではスプーンを使わずに右手でそのままカレーを食べるのだが、「案外難しかった」と。学校訪問では彼らの数学や英語力の高さに圧倒され、でも英語力はなくても、英単語やジェスチャーで思いを伝えることはできた。今回のさまざまな体験は、「これから生きていく上で勇気と自信を与えてくれました」と胸を張りました。

続いては「にほんご人フォーラム2019 in ベトナム」について東京、埼玉、新潟の3名の高校生の報告です。インドネシア・タイ・フィリピン・マレーシア・ベトナムの5カ国と日本からの高校生4名ずつが参加し、各国1名ずつの4グループを作り、日本語を使ってのワークとその発表を行いました。日本語の習熟度が違う中でどうやって一人ひとりの意見を尊重し、とりまとめるか苦労したが、バラバラだった意見が一つにまとまっていく実感や思いもかけない意見がたくさん出、理解しようと努力した結果心の距離も近くなるなど、活動

外でも多くのことが得られた。「考えに深みが増したり視野を広げたり、大きく成長できました」と締めくくりました。

グローバルコミュニケーションに必要なスキルとマインドセットの醸成を目的とした大学生対象の人材育成プログラム「かめのりカレッジ2019」には、アジアからの留学生4名を含めた21名が参加し、3泊4日のプログラムはすべて英語で行われました。発表はマレーシアから関西学院大学国際学部で留学中のムハマッド カイロル アミンさんです。「価値観ゲーム」では何に価値をおくか1位から10位までの順位付けを各自がやらなければならず、「10年後自分はどのような人材になっているか？」をプレゼンするなど中身の濃いトレーニングが続き、自分自身を見つめ治

すいい機会ともなりました。その後多くの仲間が留学して、それぞれがんばっているとのことでした。

最後はベトナムからのかめのり奨学生、一橋大学商学部修士課程で学ぶゲン フォン パオ チャウさんです。2018年4月からかめのり奨学生となり「かめのりファミリー」という言葉を聞いた。その夏に奨学生の人たちと研修旅行に行き、ファミリーの仲間入り。2019年夏の研修旅行は台風によって飛行機が飛ばず新幹線で函館までいったので、ようやく着いたのが夜。初日はつぶれてしまったが、先に着いたメンバーがプログラムの組み直しなどをしてくれて、予定の内容はすべて消化できた。みんなが助け合い協力し合う「かめのりファミリーという言葉の意味を心から理解することができました」と語りました。



### ゲストスピーチ

## グローバルな視点から考える地方創生 — シンガポールと日本

福井ユナイテッド株式会社代表取締役社長  
吉村 一男 氏

私が日本興業銀行へ入行し、ニューヨーク駐在の頃はバブルの絶頂期。その後途上国の開発にかかわりたいと返還前の香港へ行き、96年に17年勤めた日本興業銀行をやめてシンガポールに移り住み、もう20年以上です。家内は中国系シンガポール人で、2人の子がいます。社会人になってからの4分の3は海外に住み計30年以上ですから、自分でも何人か分からないという感じです。外から日本をみると、日本の地盤沈下が進む中、「日本の常識は世界の常識ではない」と痛感します。

グローバル化とデジタル革命、とくに情報通信の大きな発展によって、世界中どこにいても、強い意思とやる気があれば技術移転も資金も必要なものは全部集められる社会になりました。それは地方でもどこにいても勝負できるという社会であり、グローバ

リゼーションにどう対応できるかがカギです。日本の人口減少は止められないけれど、アジアのこれから発展していく国々に発信し連携することで、日本の優れた文化、技術を世界に広めていくことができます。それは日本のためだけでなく、これから伸びていく国に貢献することにもなるのだと思います。それを担うのは私たちではなく、今日集まっている若い世代のあなたたちです。

さて、シンガポールという国は1965年8月に独立し、リー・クワンユーという偉大なリーダーがこの国を発展させました。彼が力を入れた1つが住宅政策。公営住宅をたくさん作ったので人口の8割が住んでいます。シンガポールは74%が中国系、13%がマレー系、9%がインド系と多民族国家ですが、人種間トラブルはない。それは人種同士が1つに固まらないように住宅政策で割り振っているからです。子供が仲良くなれば親も仲良くなる、多民族国家の知

恵ですね。さらにシンガポールの在住人口は570万人だが、シンガポール国民は350万人、つまり私のような外国人が4割もいて、世界から頭脳が集まっている。当然言葉も多様ですが、多民族多言語でも治安は悪くない、社会のホームニーも壊れていない。日本はこれをお手本にしたらいいと思う。

なぜなら、日本の人口減少は急激に進み、50年後には4000万人減って8600万人に。でも、例えば毎年20万人ずつ移民を受け入れたら、50年後は1000万人になって、日本の人口1億人をキープできるわけです。しかも多様性の活力によって、イノベーションが生まれる。日本に住んだ外国人たちは世界へ発信する、あるいは世界に帰っていく。それで日本の国力は保てると思う。ただし、どういふ国家を目指すのか、移民はどのくらいの規模か、高度人材をどう受け入れるのかなど目標を明確にしないと成功は

難しい。目標を共有しながら協働してゆく。それができれば地方は再生できます。

1996年に私がシンガポールに移住した時、日本の一人当たりGDPは3万8400ドルで世界第3位。シンガポールは15位でした。今、日本のGDPは3万9000ドルで20数年間増えていない。シンガポールは6万4000ドルで8位、日本は26位です。なぜこうなったのか。シンガポールのグローバル化とデジタル革命です。英語圏という強みもありますが、今後、アジア経済は間違いなく強くなり世界の60%を占めるようになるでしょう。中国はやがて世界ナンバー1になり、次にはインドがナンバー1に。日本は地政学的には、圧倒的に優位なポジションにいるのです。チャーチルの言葉「成功は終わりではない。失敗しても死ぬわけでもない。大事なのは継続する勇気だ」。皆で共働してチャレンジを続けましょう。



【プロフィール】 福井県生まれ。東京大学卒業後日本興業銀行入行、ニューヨークや香港に駐在。1996年に日本政府主導のアジアインフラストラクチャー開発会社のマネージングディレクターとしてシンガポールに。2011年よりKYCOMホールディングス株式会社取締役、シンガポール子会社のマネージングディレクター。2019年福井ユナイテッド株式会社代表取締役社長。



## かめのり中高生アンバサダープログラム2020 フィリピンへの派遣

かめのり中高生アンバサダープログラム2020 (KTAP2020)は2020年1月25日(土)~2月2日(日)までの9日間、12名の中高生がフィリピンを訪れました。マニラの市内観光をはじめ高校・大学訪問、地域の子供たちとの交流やJICAでは国際協力の意義を学ぶなど、刺激的な体験の連続でした。その中で独立行政法人国際交流基金との共催で行った「にほんご人フォーラム in フィリピン」は、日本語を学ぶフィリピンの生徒と、日本語を教える教師も加わってのワークショップですが、今回はそのフォーラムについてご紹介しましょう。



にほんご人フォーラムの仲間たち

Japanese Speakers Forum in Philippines (以下JSFP)はフィリピンの公立中学校で日本語を学ぶフィリピン人生徒が日ごろの勉強の成果を発揮し協働する場として、国際交流基金マニラ日本文化センターが提供しているイベントです。かめのり財団からの支援を受け2013年から続いています。今年はフィリピン全土の学校から環境問題と日本語に興味のある30名の生徒が選ばれました。

今年のテーマは「Let's be ECO-Friendly: Plasticをへらそう!!」で、昨今日本でも社会問題になっているプラスチックの削減につ

いて、スピーチを聞いたり、フィールドワークをしたりしながら見聞を広め、グループとして発表をすることになりました。

一方、KTAPは2017年からJSFPに参加してくれるようになりました。フィリピン人生徒にとっては同世代の日本人と話す貴重な機会です。12人のKTAP生にはフィリピン人生徒と同じように「エコ活動に関する事前課題」に取り組むとともに、「やさしい日本語」習得にも取り組んでてもらいました。実は「Japanese Speakers」といっても週に1~2コマ程度しか日本語の授業がないフィリピン人生徒は日本語によるコミュニ

ケーションがスムーズにはできません。そこでKTAP生に「やさしい日本語」について学んでてもらい、フィリピン人生徒と「やさしい日本語」でコミュニケーションをとるようお願いしたのです。

フォーラム当日、お互いに緊張した面持ちで集合した参加生たちでしたが、プログラムが進むにつれ、少しずつ距離を縮めることができたようです。1日の振り返りの時間にはそれぞれの気持ちの高まりの変化を示す「気持ちチャート」を書いてもらいました。初日はフィリピン人生徒は「日本語でコミュニケーションを取ることにストレス」、KTAP生は

まずは自己紹介で距離を縮めます



名前をカタカナで書いてもらいました

日本語と英語で発言します



みんなでフォーラムを盛り上げました

「思っていた以上に日本語を使ってくれないことへのストレス」を感じていたようですが、参加生はみな次の目標を立てコミュニケーションの方法を模索していました。

活動の最中にKTAP生が孤立している場面、英語ばかり話している場面、それぞれが自分のアイデアを主張しあう場面、さらには意見が合わずに衝突している場面も見られました。しかし周りの大人の心配をよそに生徒たちは拙い言葉でもお互いの気持ちをぶつけ合ったり、じゃれ合ったりをくり返しながらかみ合わせ、最終発表を作り上げました。

最初は遠慮がちだった参加生たちは濃密な2泊3日を通し、意思を疎通させる方法を学んでお互いの人間性を理解できるようになったり、自己開示ができるようになったりと、学ぶことは多かったようです。

最終日にKTAP生もフィリピン人生徒も涙ながらに別れを惜む姿が印象的でした。今後もKTAP生がJSFPに参加してフィリピン人生徒と本音でぶつかり合い、真の友だちになってくれることを期待しています。

報告：国際交流基金 マニラ日本文化センター 小林 学



事前課題を「やさしい日本語」でシェアしました



グループワークを通してすっかり「仲間」に

## 講演会

弊財団では、アジアの国々との相互理解の促進やグローバル人材育成を目的とした講演の機会を提供しています。今回はカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授に福岡県立香椎高等学校でご講演いただきました。

2020年2月21日(金)、カリフォルニア大学サンディエゴ校からのメッセンジャーは、これから訪れる見えない未来を視覚化させ、そこで生きていくために必要な備えを示し、参加した全ての生徒と教師に、将来の自分のために今何をすべきかを教えてくれました。

福岡県立香椎高等学校は、各学年普通科8クラスとファッションデザイン科の1クラス全日制高等学校であり、部活動入部率90%以上で来年創立100周年を迎える伝統校です。「自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成・輩出」を教育目標として、生徒たちはSDGsから選択した課題を探究しています。

メッセンジャーは當作靖彦教授で、「破壊的イノベーションの時代を生きるための7つの能力・資質と将来設計」というテーマで、質問を含めた60分間の講演をいただきました。演題の「破壊的イノベーション」のイメージから、ネガティブで不安を感じる内容を想像していましたが、これまでの歴史から見られるような古いものを少しずつ改良・変化させてきた緩やかな移り変わりから、古いものを破壊して新たなものを築くといった瞬間的な変化へと変貌するという、短時間でとんでもない進化を続ける世界に適応する力を身につけなければならないとの警鐘でした。

よりよい社会を創るために人の代わりとして開発されたAIに人が支配される世界、これまで映画の中で見てきた話を、先生は現実のものとして確信させるだけの科学的根拠と数量的実例を示し、明確なイメージをもたせてくれました。

私はこれまで、何になりたいかを見つけ、その職業に必要な能力や資質を習得するためにすぐにも取り組んだ方がよい職業であれば進学する必要はないし、更に修学を必要とするものならば、大学や大学院、専門学校といった方向に進路を取り目標の達成を目指すよう指導してきました。しかし、今回の講義で示されたように、現在の社会を構成する様々な職業の多くが消えていき、現状では想像もできない職業に移り変わることで、生涯の中で複数の職業を経験することが当たり前になる将来が来るならば、目標設定の形を大きく変化させる必要があります。しかも早急です。

何が起きても対応でき、その変化をチャンスに変えることができる、そんなことを可能にするための7つのソフトスキルである1)創造力、2)多様性の尊重、3)共感性、4)高度な思考力・問題解決能力、5)コミュニケーション能力、6)変化への適応性、7)自律的学習能力を伸ばし、破壊的イノベーションによって突如出現する世界を自らのチャンスに変えることができる、冬を耐え、一斉に芽吹く春を待つかのように、未来の急激な変化を不安に感じることなく、ワクワクしながらチャンスに変えられる、そんな生徒を育てたいと思いました。

講演が終了し、私の中にもイノベーションを起こしていただいたと充実感を感じていた時、生徒は「将来、AI搭載のロボットと結婚したり働いたりする時、ロボットの人はどうなるか」と先生に聞きました。ロボットに自らの権利が認められれば、ロボットによる人間への支配は止められなくなる・・・もう一つの質問は「AIさえも破壊するイノベーションはいつ起きるのか」・・・今聞いたばかりのAIの世界を想像していた私に対し、生徒たちの発想は遥かに先をいくもので、満足していた自分の小ささを笑いながら、生徒の未来への可能性を心から嬉しく思いました。

報告：香椎高等学校 教頭 高木 浩信



### KTAP2020 フィリピン派遣 実施日程

1月 25日(土)	出発直前オリエンテーション 羽田出発
26日(日)	マニラ着 マニラ市内見学(イントラムロス内マニラ大聖堂、サン・アウグスティン教会、サンチャゴ要塞、リサール公園)
27日(月)	デラサール大学訪問、Jose Abad Santos 高校訪問
28日(火)	JICA 訪問、Unang Hakbang Foundation* 訪問
29日(水)	にほんご人フォーラム in フィリピン (国際交流基金マニラ日本文化センター主催)
31日(金)	
2月 1日(土)	古代文字・フィリピン音楽・舞踊の体験、体験発表会
2日(日)	マニラ出発 帰国

\*経済的に恵まれない子どもたちを支援する施設



## 第13回かめのり賞表彰式

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰するものです。

今年度は23団体からご応募いただき、外部有識者を含めた「かめのり賞選考委員会」により、3団体の表彰が決定しました。  
(今年度は「かめのりさきかけ賞」は該当団体・該当者なし)



### 第13回かめのり賞表彰(敬称略)

#### かめのり大賞 草の根部門

特定非営利活動法人 日本・バングラデシュ文化交流会



バングラデシュの農村部では30%が成長不良児という実態を改善すべく、「大豆入り学校給食」を2010年に開始。学校・保護者・住民の協力をえながら継続することで、子供たちの体力、出席率も向上。住民による持続可能な学校給食を目指し活動。



栄養不足解消をねらった給食に子供達も大喜び

#### かめのり大賞 人材育成部門

特定非営利活動法人 にほんご豊岡あいうえお



外国にルーツをもつ人々と共に生きる地域社会を目指して活動している。日本語の学習支援にとどまらず、乳幼児の健診、出産や小学校入学などの子育て支援、仕事や自転車のルール、災害時の避難など各種の生活相談や交流会なども行っている。



子供から大人までさまざまな取り組みを展開

#### かめのり特別賞

特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会



健康で平和な世界をすべての人とわかちあう(シェアする)ために、医師、看護師、学生などが中心になり、1983年に設立された国際保健NGO。住民の主体的な参加や自己決定権を保障する理念を尊重し、「Health for All」を目標に、人材育成を中心とした事業を展開。



地元の住民が主体となって実施できるよう支援

## かめのりセッション

「かめのりフォーラム」の終了後、参加生たちは国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊。翌1月11日(土)朝8時半から「かめのりセッション」が始まりました。理事・事務局長の西田浩子がこのセッションの目的等を話し、プログラムごとに分かれて、活動の振り返りを行いました。そして再び一堂に会して、各グループの代表者が発表。「世界のことをもっと知りたい」「貧しい子供たちの現状を見て、自分にできることを1つでも継続していきたい」「これからの人生を変えるほどの体験だった」などの発言がありました。続いてアジアからの大学院奨学生8名が壇上に並び、日本の若者について感じることを、後輩たちへ贈る言葉などを発表しました。

最後は弊財団の創設者で評議員の康本健守が壇上に立ちました。学生時代は英語が嫌いであり、大人になって習得するのは大変、若いうちにしっかりと勉強しておけ

プログラムごとに小グループになっての振り返りセッション



ばよかった」と自身の体験を語り、参加生からの質問を受けました。「リーダーとはいかにあるべきか」「日本には即戦力となるようなビジネススクールがないが…」などの質問には、「日本の大学はアカデミックで、物事のとりえ、考え方、展開の仕方などを深く広く捉える教育になっている。ビジネスにすぐに役立つスキルではないが、私はビジネススクールの方が良いとは思わない」との答えでした。2日間のプログラムを終え、未来のグローバルリーダーたちはそれぞれのふるさとへと散っていきました。

活動ごとに代表者がまとめて発表



大学院奨学生からは、後輩たちへの励ましの言葉も



## 第11回中学生交流プログラム

まだ心の柔らかい、感受性の鋭い年代に留学体験をしてほしいとの思いから、かめのり財団では中学生の短期留学を主催しています。

11回目は2019年11月2日(土)～10日(日)まで、東海・北陸地方の中学生8名を公益財団法人AFS日本協会の協力のもとインドへ派遣しました。1泊2日の出発前研修を経て、現地では有名な観光地やフィールドトリップでインドの文化・社会に触れ、ホームステイにより現地のファミリーとのコミュニケーションにトライするなど、異文化体験の9日間でした。

今回の中学生プログラムのインド訪問のテーマは「食文化」でした。インド旅行では必ずお腹を壊すという世の通念とは裏腹に、胃薬を出発前から飲んでおくという事前準備が奏功したのか、全員無事インドの「食文化」を堪能することができました。スパイスには単に辛さだけでなく人間の自然治癒力を上げる作用が宿っていることに感動したり、プーリーという揚げナンがとても日本人の口に合うことを発見したり、世界一甘いスイーツといわれるグラブジャムを体験したり、日本では絶対に味わえないような食文化体験をすることができました。

私たちが到着したときのデリーの大気汚染は学校が休校になるほどひどく、おかげで2校予定していた学校訪問が1校になってしまいましたが、先生方はじめ生徒たち全員による学校をあげてのビックリするほど盛大な歓迎を受けたことでそんなことは吹っ飛びました。ホームステイでも生徒の家庭がホストファミリーになってくれ、わずか数日ではありましたが、最後は別れの涙をはばからないほどすっかり仲良くなりました。本当に優秀で性格の良い生徒たちばかりで、参加した中学生たちのインドの印象は彼らの印象そのものとして深く長く心に刻まれることでしょう。人と人の顔の見える交流がどれほど大切かを実感させてくれる瞬間です。

世界遺産もたくさん訪ねました。タージ・マハルは言うに及ばず、アーグラ城塞やフマ

現地の中学校・高校を訪問。なかにはハーバード進学者も



たまたま出会った現地中学生。積極的に話しかけてきた

ユーン廟、クトゥブ・ミナールなどの赤砂岩の巨大建築物に圧倒されながら、歴史に詳しいボランティア・スタッフのディーバックさんの解説に耳を傾けました。中学生たちにとって恐らくそれまでさほどでもなかったムガル帝国の存在感が一気に駆け上がったことでしょう。ヒンドゥー教についても、デリー郊外のアクシャルダム寺院の世界一を誇る巨大さ、金色に輝く巨大仏像の荘厳さには思わず息を飲みました。

現地に足を運び、実際に目で見ては鼻で匂い

タージ・マハルの前で 本場のナンは美味しい!



インドの大気汚染はひどく、この日は学校も休校



ホストファミリーの計らいでインドの衣装で記念撮影

を嗅ぎ、耳で音を聞き手で触るといことがいかに尊く、またかけがえのない体験であるかを、きっと全員が肌で感じ取ってくれたことと思います。たとえそれが鼻を突くスモッグの匂いであろうと、はっきりなしの耳障りなクラクションの騒音であろうと、それを五感で感じることによって得た感性は生涯残るに違いありません。そして、それは現地で友好を重ねた様々な人びとの思い出とともに中学生たちの心の成長に大きな影響を与えていくに違いありません。

報告：引率団長 四日市大学 山本 伸

今後の予定 | 4月 大学院留学生アジア奨学生 奨学生証書授与式・交流会  
6月 第14回かめのり賞 募集開始

お詫び

「かめのりコミュニティ32号」で、体験手記を寄せていただいた「張 詩悦さん」のフリガナが間違っておりました。お詫び申し上げます。

### 参加者募集 にほんご人フォーラム2020

今秋実施予定の日本とアジアの高校生が協働する研修プログラム「にほんご人フォーラム2020」が10月5日(月)～12日(月)の7日間、タイのバンコクで行われます。応募締め切りは、2020年5月15日(金)。詳細は4月10日以降ホームページをご覧ください。

発行人 / 西田 浩子 編集 / 悠プランニング デザイン / イワチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルビュー麹町1階

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : http://www.kamenori.jp/